



エネルギー問題に
発言する会
講演座談会

「海上自衛隊の現状」 -わが国のエネルギー確保の観点から-

2026年7月21日
13:30-15:30

元自衛艦隊司令官
香田洋二

今日お示しする話題

① 海上自衛隊とは

- ・1952(S27)年「海上警備隊」、1954(S29)年「海自」創設
- ・海上警備隊以来74年(帝国海軍と同一年齢)の歴史
- ・組織、装備

② 任務と防衛構想

- ・海上交通の保護
- ・自衛隊統合運用体制と海自：国土防衛との関係
- ・日米同盟と日米共同体制

③ 任務の分析

- ・我が国の防衛とインド太平洋地域の安定
- ・武力攻撃事態、存立危機事態、重要影響事態

④ 現在の課題

- ・ウクライナやホルムズ海峡とエネルギーに絡めた考察
- ・原子力推進機関

海上自衛隊とはー1

我が国安保に関わる戦後の状況

- ・1948年：海上保安庁創設
- ・1950年：朝鮮戦争勃発、警察予備隊創設＝朝鮮出撃米軍の補完
- ・1952年：警察予備隊が保安隊に改編(8月)
海上警備隊創設(4月)、警備隊に改編(8月)

- ・1954年：自衛隊創設

創設時の海自兵力

- ・米軍貸与のフリゲート艦(PF)18隻、上陸支援艇(LSSL)50隻
- ・帝国海軍の小型掃海船艇約50隻
- ・約7,600人

航空部隊

- ・1953年：ベル47Dを4機輸入

潜水艦部隊

- ・1955年：米国から1隻貸与

海上自衛隊とはー2

● 創設期の海上自衛隊の活動

・周辺海域の機雷掃海

終戦時の我が国周辺海域の機雷数

日本敷設: 55,000個

米軍敷設: 11,000個

掃海担当組織

海軍 - 第二復員省 - 復員庁 - 運輸省海運総局 - 海上保安庁 -

海自創設後は海上自衛隊

この間の殉職者: 78人

● 成長期以降の海上自衛隊の活動

・我が国の海上防衛のための防衛力整備と体制構築

・防衛能力向上のための教育訓練

・日米共同体制の整備

海上自衛隊とは－3 主要組織

防衛大臣(防衛省)

統合幕僚長(統合幕僚監部)、統合作戦司令官(同司令部)

海上幕僚長(海上幕僚監部)

自衛艦隊(横須賀)主力作戦部隊(3.3万人／4.4万人)

水上艦隊

航空集団

潜水艦隊

開発隊群

特別警備隊

横須賀地方隊(横須賀) - 大湊地区隊(むつ市)

呉地方隊(呉)

佐世保地方隊(佐世保)

舞鶴地方隊(舞鶴)

情報作戦集団(市ヶ谷)

海上自衛隊とはー4 主要装備

主要装備＝バランスの取れた自由世界第2位の作戦能力

護衛艦 : 54隻

掃海母艦 : 2隻

掃海艦艇 : 17隻

輸送艦 : 3隻

エアクッション艇 : 6隻

ミサイル艇 : 6隻

回転翼哨戒機 : 90機

固定翼哨戒機 : 30機(P-3C)

35機(P-1)

回転翼(輸送掃海) : 10機(MCH-101)

潜水艦 : 22隻



注：本スライドの写真
の資料源ははすべて
海自HP













海上自衛隊の任務と防衛構想－1

海上自衛隊の任務

- ・我が国の防衛（自衛隊）-我が国の海上防衛（海上自衛隊）
- ・日米同盟、日米共同対処を基本

我が国の海上防衛

- ・我が国周辺海域の防衛
- ・海上交通の保護

我が国周辺海域の防衛

海上交通の保護

- ①我が国生存と国家活動維持のための海上交通の安全確保
 - ②我が国防衛のため来援する米軍部隊の安全確保
- ・任務達成のための主要作戦
 - ・対潜戦：対空戦、対水上戦等は対潜戦実施のための作戦
 - ・対機雷戦

海上自衛隊の任務と防衛構想－2

自衛隊統合運用体制と海自

- ・統合幕僚監部と統合作戦司令部の設置
- ・3自衛隊を統合運用して我が国防衛任務を達成
- ・我が国防衛任務

陸上自衛隊、航空自衛隊：我が国の直截的な防衛

領土と周辺空域の防衛

海上自衛隊：我が国の直截的な防衛＝周辺海域の防衛

海上交通の保護

忘れられがちな「海上交通の保護」

- ①我が国生存と国家活動維持のための海上交通の安全確保
- ②我が国防衛のため来援する米軍部隊の安全確保

日米同盟と日米共同体制

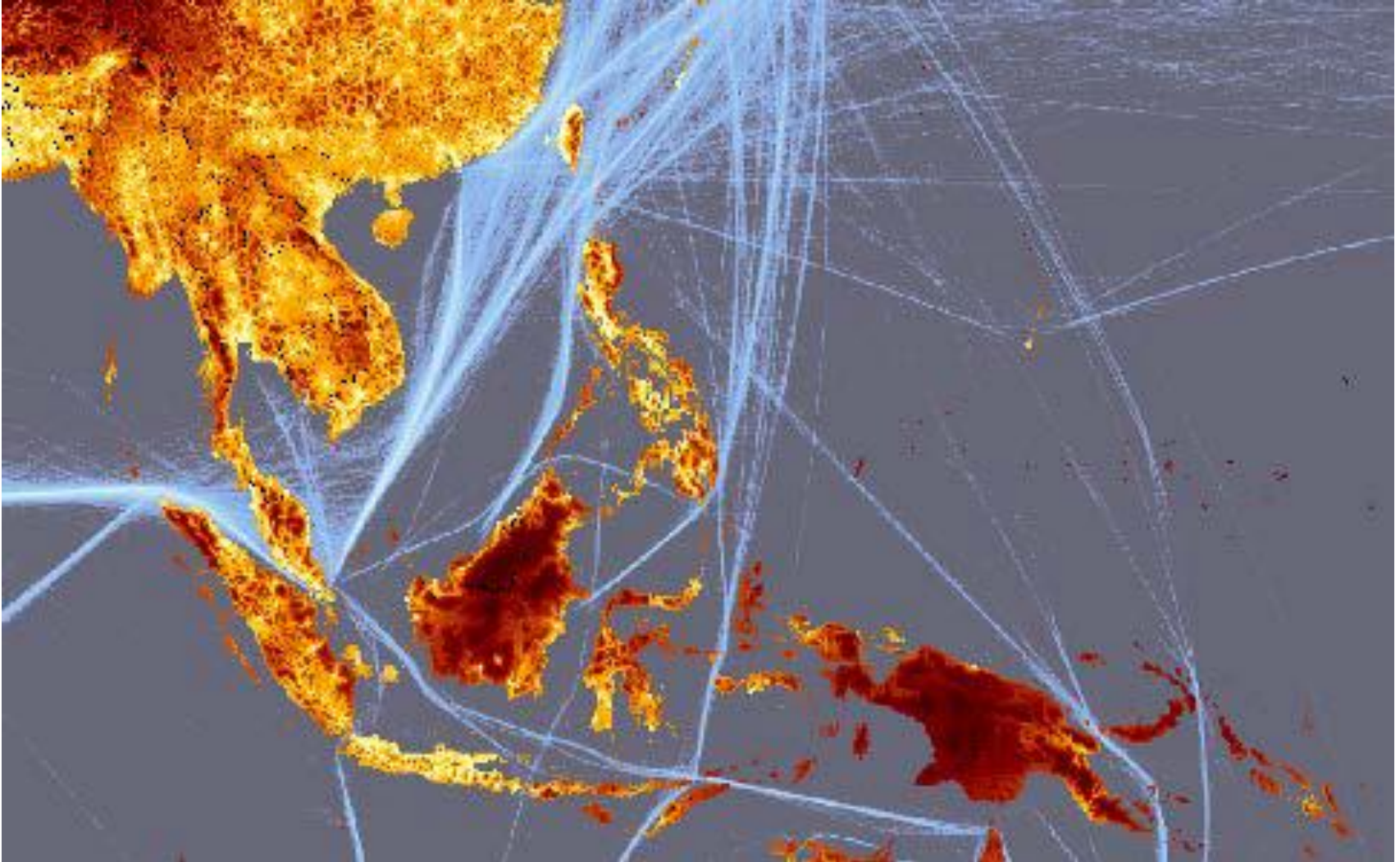
- ・日米の戦略的任務分担
- ・日本：世界で唯一空母機動部隊と海兵隊遠征軍の海外展開先

任務の分析

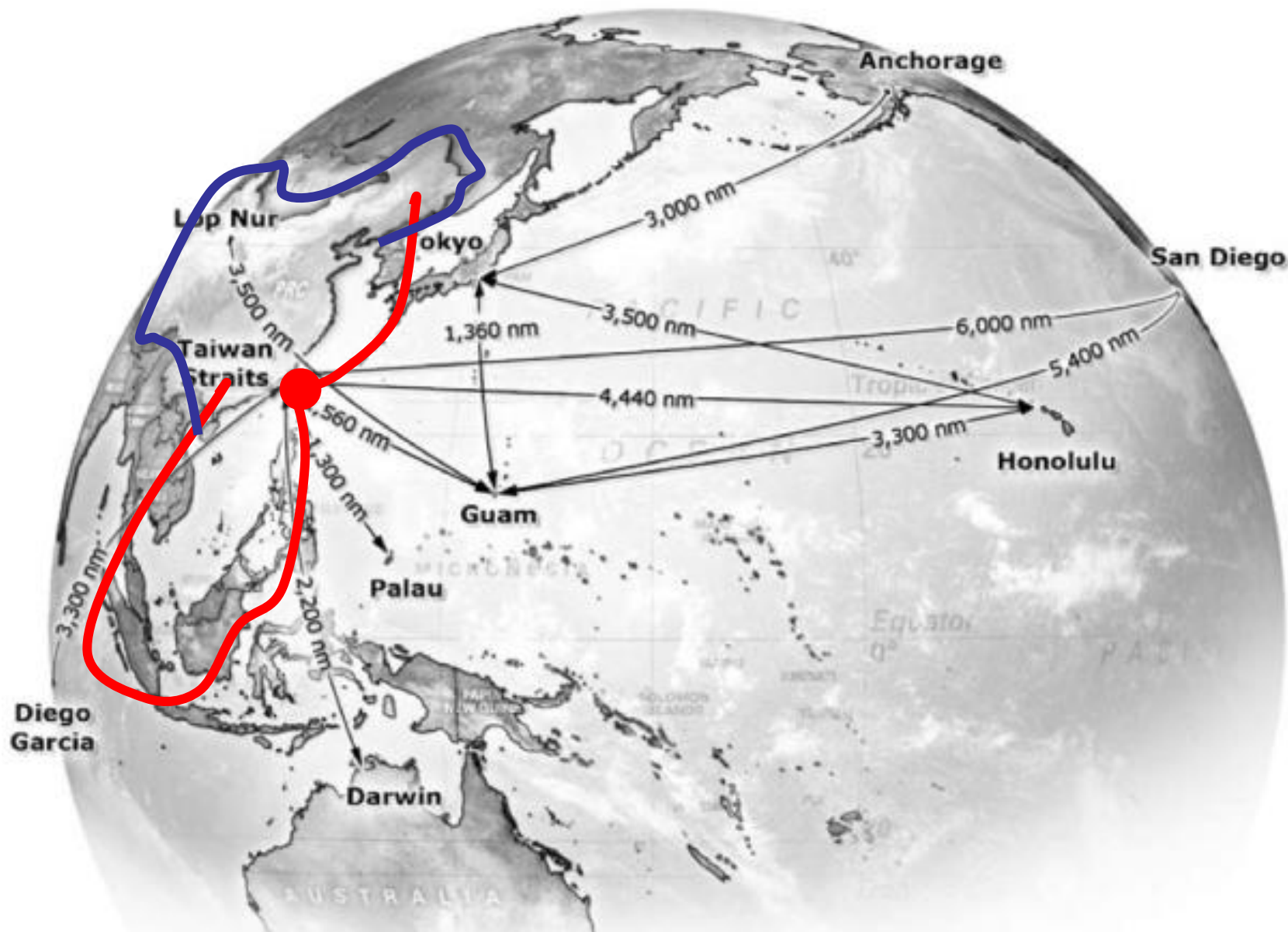
海上交通の保護と日米共同

- ①我が国生存と国家活動維持のための海上交通の安全確保
資源小国・食料ほぼ非自給国・大規模近代工業国
人口1億2千万人の島国＝輸入量約7億トン・原油約1.4億トン
- ②我が国防衛のため来援する米軍部隊の安全確保
侵略抑止と排除のための侵略国の直接的打撃能力に制約
限定的な反撃能力
侵略早期終結のための侵略国に対する反抗作戦：米軍
米軍の大規模な弾薬と燃料の前方備蓄
きわめて発達した我が国の国内インフラ
国内約90本の2,500m以上の滑走路
30カ所以上の大型港湾
最も厳しい烈度の戦闘に対する米軍の作戦能力の確保
有事の米軍支援能力：自衛隊＋我が国の総合力

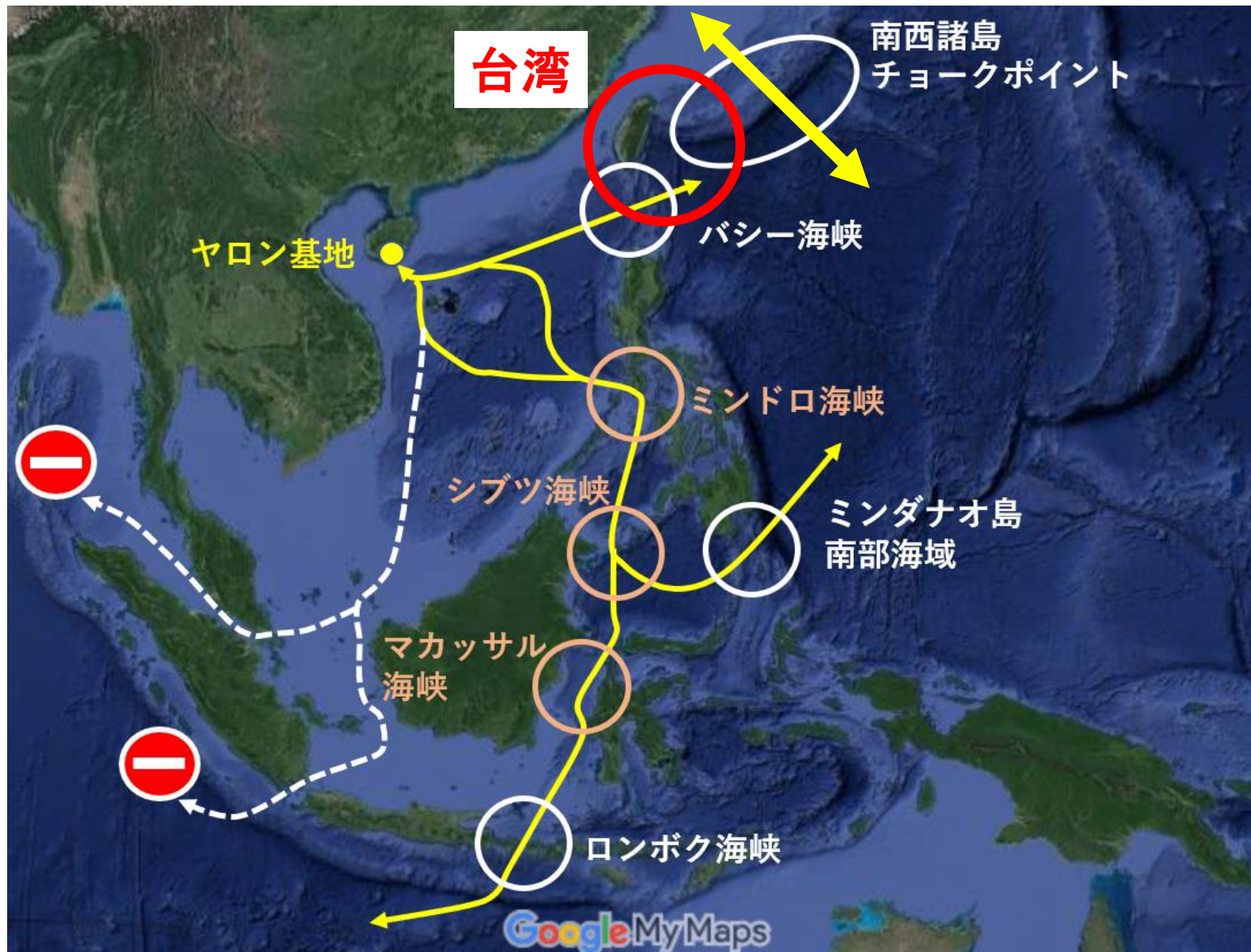
インド太平洋海域におけるSLOC (Sea Lines of Communication)



我が国から見た中国：地理的に包囲された国



中国：海上交通に依存する海洋閉塞国・チョークポイント

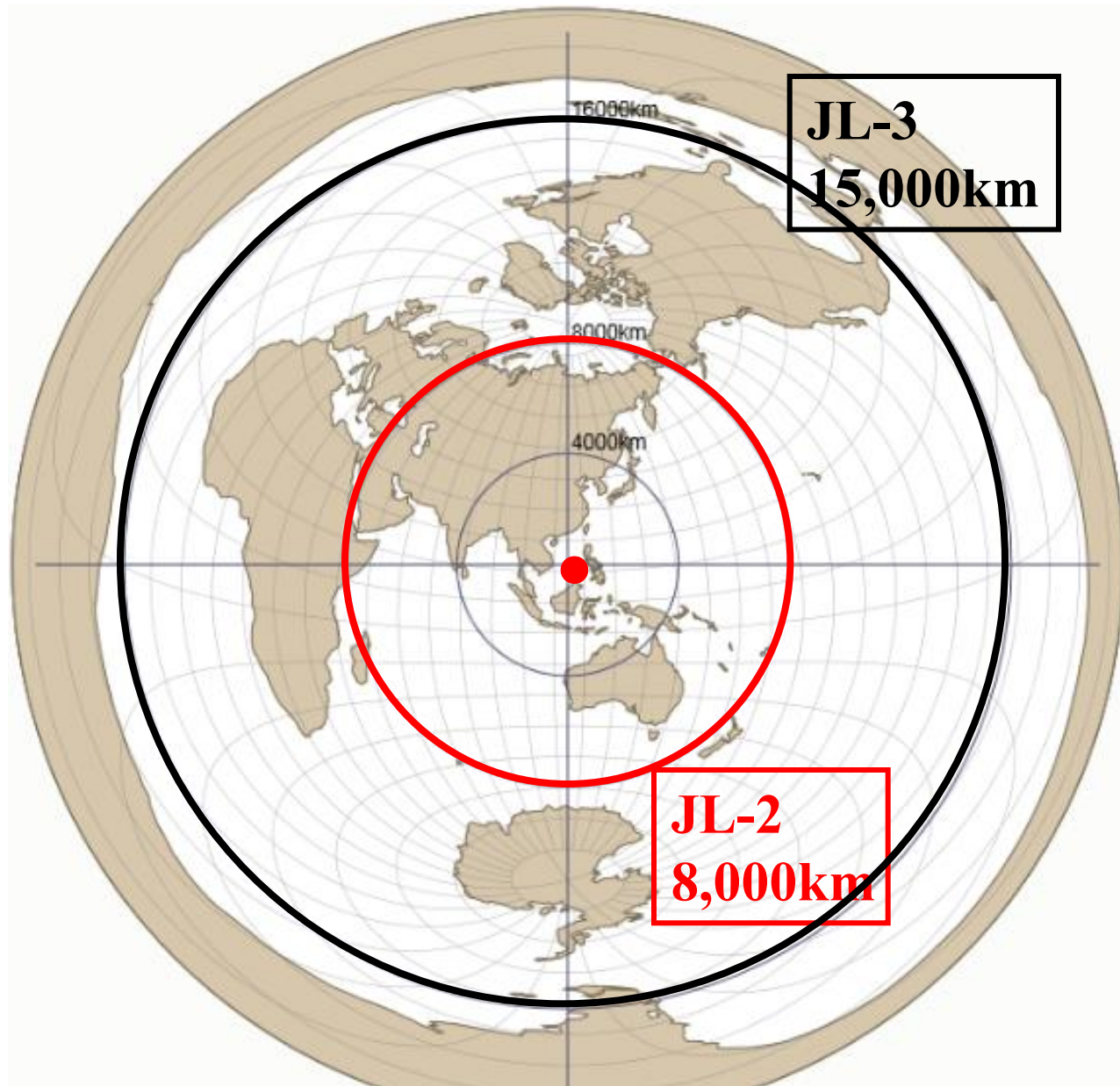


Google Map図に講演者が作図

米軍基地とインド太平洋



最近の話題：中国のJL-2 とJL-3の射程図（南シナ海発射）



安保三法(平和安全法制および事態対処法制)の主要事態

武力攻撃事態

- ・日本に対する外部からの武力攻撃が発生または攻撃の明白な危険が切迫している事態
- ・防衛出動＝個別的自衛権

存立危機事態

- ・日本と密接な関係にある他国への武力攻撃により日本の存立が脅かされ、国民の生命や権利が根底から覆される明白な危険がある事態
- ・限定的な「集団的自衛権」

重要影響事態

- ・放置すれば日本への直接の武力攻撃に至るおそれなど日本の平和と安全に重要な影響を与える事態
- ・戦闘行為が行われている現場を除き米軍や外国軍隊に対する「後方支援活動」

インド太平洋海域における望ましい海洋戦略



カギ

- ・QUAD
- ・インドネシア

現在の課題

ウクライナ

- ・ドローン、サイバーなどはゲームチェンジャーか？
- ・現場の実情は？

イラン・ホルムズ海峡

- ・我が国の貢献のあり方
 - 自衛隊派遣
 - 自衛隊派遣以外

皆様の主関心事

- ・原子力推進機関
 - 防衛力整備と最新技術

艦載原子炉は一日にしてならず

1. 1950年代

代表炉型: S2W(潜水艦「ノーチラス」、1951年発注、54年就役)
A2W(空母「エンタープライズ」)

2. 1960年代～1970年代

代表炉型: S3W, **S5W**(「パーミット」級、「スタージョン」級)
設計が標準化された量産型、高信頼性と安全性

3. 1970年代～1990年代

代表炉型: S6G(「ロサンゼルス」級)
A4W(空母「ニミッツ」級)
静粛性、出力、信頼性が大幅に向上
原子炉寿命期間中の燃料交換が不要

4. 2000年代以降～

代表炉型: S9G(「バージニア」級)
A1B(「ジェラルド・R・フォード」級空母)

ご清聴ありがとうございました

ご質問・ご意見をいただきます